

## 令和6年度千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム

### 「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」

#### (園芸コース)第3期生 募集要項

「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」は、現在オールジャパンで展開されている農業と福祉双方の課題解決を図る取組みとしての農福連携に、当センターがこれまで取り組んできた「環境・健康・食」に関する教育研究活動の成果を加えた“多様な”農福連携活動を企画・運営できる人材を持続的に育成するシステムを構築することを目的としたプログラムです。園芸作物栽培を1年間通じて学ぶ「園芸コース」のプログラム受講生（第3期生）を下記の要領で募集します。

#### 1. 概要

本プログラムは、多様な農福連携プログラムを企画・運営するための「園芸作物栽培」に関わる基礎的な知識・実践能力の獲得を目指す実習、オンデマンド講義を組み合わせたカリキュラムになっており、園芸作物栽培の基礎を学びつつ、様々な視点を提供することで、その先の農福連携の実践も見据えた内容になっています。実習やオンデマンド講義を1年間通じて学ぶ合計60時間のプログラムです。（対面とオンラインの併用を予定しています。）

#### 2. 応募資格

原則として以下の要件を満たす方を想定しています。

農福連携やSDGs、地方創生、園芸作業に関心のある方

※実習が主体になるため、オンラインのみでの参加はできません。

#### 3. 募集定員

5名程度

応募書類を選考の上、令和6年3月25日（月）以降順次選考結果を連絡します。

#### 4. 応募方法

##### (1) 応募書類

「令和6年度多様な農福連携プログラムに貢献できる人材育成プログラム」応募用紙

※応募書類は、千葉大学環境健康フィールド科学センターウェブサイトよりダウンロードすることができます。

URL : <http://www.fc.chiba-u.jp/rishuushoumei/>

##### (2) 応募期間

令和6年2月28日（水）～令和6年3月18日（月）（必着）

### (3) 書類提出先

(メールの場合 : field-jinji@chiba-u.jp ※件名の先頭に【受講希望】と記入願います。

郵送の場合 : 〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

千葉大学環境健康フィールド科学センター (柏の葉地区事務課) 総務係 宛

※「千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム応募書類在中」と朱書きし、簡易書留にて郵送願います。

※応募にあたってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、本学において、履修生の管理業務、本プログラムに関する情報提供等、これらに付随する業務を行うためのみに使用します。また、取得した個人情報 は適切に管理し、使用目的以外には使用しません。

## 5. 修了の要件

履修証明プログラムとして設定されたカリキュラム (全 27 回・計 60 時間) すべてにおいて、それぞれの修了要件を満たすこと。本プログラムを修了した場合、履修証明書を授与します。なお、単位の授与はありません。

## 6. 受講料及びその他費用について

(1) 受講料 60,000 円

※受講決定通知後、令和6年4月26日(金)までに振り込み願います。なお支払われた受講料は、原則返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

(2) その他

本プログラムで実施する対面実習に参加する交通費・宿泊費等は自己負担となります。

対面実習は、千葉大学柏の葉キャンパスで実施することを予定しています。

ジャム加工実習に参加する場合は腸内細菌検査を受けていただく必要となります。

## 7. 今後の日程について

(1) 応募書類締切	令和6年3月18日(金) 必着
(2) 選考結果通知 (振り込み案内の送付を含む)	令和6年3月25日(月) 以降
(3) 受講料の支払い (60,000 円)	令和6年4月26日(金) まで
(4) 実習/オンライン授業期間 ※初日に開講式、最終日に修了式を行います。	令和6年4月5日(金) ~ 令和7年1月31日(金)
(5) 履修証明書授与	所定の手続きを経た後、郵送します。

## 8. 問い合わせ先

千葉大学環境健康フィールド科学センター (柏の葉地区事務課) 総務係

〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

TEL : 04-7137-8000 Mail : [zao8006@office.chiba-u.jp](mailto:zao8006@office.chiba-u.jp)

## 履修証明プログラムの構成・日程など

●多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム（園芸コース）

（１）構成（全 27 回・計 60 時間）

○対面実習 13：30～16：00 2.5 時間×20 回

8 月の回 9:30～15:30 5 時間 計 55 時間

○オンデマンド講義 1 時間×5 回 計 5 時間

（２）日程

○対面実習

回	月	日	主な実習内容（予定）	
1	4	5	開講式（大講義室），施設見学	
2		12		
3		26		
4	5	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて主として園芸作物（果樹・野菜・花き類）の育成・管理を行う。</li> <li style="padding-left: 20px;">播種、育苗、定植、誘引、収穫・調整など</li> <li style="padding-left: 20px;">受粉、摘果、袋掛け、誘引、剪定など</li> <li>・園芸作物の繁殖方法の基礎を学ぶ。</li> <li style="padding-left: 20px;">挿し木、接ぎ木、取り木など</li> <li>・施肥や病害虫防除の方法の基礎を学ぶ。</li> <li>・園芸作物の加工の基礎を学ぶ（ジャム加工）。</li> </ul>	
5		24		
6	6	7		
7		14		
8		28		
9	7	5		
10		12		
11		26		
12	8	未定		園芸作物一覧
13	10	4		・果樹 ナシ、ブドウ、イチジク、カキ、ウメ、ヤマモモなど
14		11		・野菜・作物 ジャガイモ、サトイモ、サツマイモ、豆類
15		25	ネギ、ダイコンなど	
16	11	8	果菜類（トマトなど）	
17		29	葉菜類	
18	12	6	・花き マリーゴールド、観葉植物など	
19		13		
20	1	10		
21		24		
22		31	振り返り，修了式（大講義室）	

○オンデマンド講義

4 月～翌年 2 月の間に 5 回配信（4 月、5 月、9 月の予定）

(2) コースの概要

1) 対面実習 (21 回)

栽培実習	
キーワード	農場、施設園芸、ジャム加工
概要	農福連携の取組で作物栽培、加工などについての基礎知識を学び実践を通じて理解を深める。作付計画立案から収穫までに取り組む。 葉菜類の露地/施設栽培 播種、育苗、定植、収穫、調整、出荷 果菜類の栽培管理、農業機械の取扱い、ジャム加工
開講日	4/5～1/31
担当	渡辺均・塚越覚・野田勝二・三輪正幸他 (千葉大学環境健康 FSC)
分類	実習
到達目標	作物栽培や加工の基礎や課題を理解することができる。 事業の改善を提案できる。
構成	実習 55 時間
修了要件	実習に参加すること
特記事項	加工実習対応で腸内細菌検査を受けてもらう

2) オンデマンド授業 (5 回)

養液栽培 1, 2	
キーワード	養液栽培、施設栽培、果菜類、葉菜類、培養液管理
概要	養液栽培の歴史、栽培施設の概要、培養液組成、栽培管理の現状を学ぶ。 課題を理解し、農福連携活動での利用を考える。
配信日	4/19, 4/26
担当	塚越 覚 (千葉大学環境健康 FSC)
分類	栽培
到達目標	養液栽培の原理を学び、農福連携との親和性を理解する。
構成	オンデマンド動画授業教材 1 時間×2
修了要件	動画を視聴しアンケートに回答する

日本の果樹園芸	
キーワード	落葉果樹、常緑果樹、棚仕立て、トレリス
概要	日本の暖地から高冷地での果樹栽培技術の変遷を学ぶ。 課題を理解し、農福連携活動での利用を考える。
配信日	5/17
担当	小原 均 (千葉大学名誉教授)
分類	栽培
到達目標	日本の果樹園芸の現状を学び、果樹生産技術の基礎を理解する。
構成	オンデマンド動画授業教材 1 時間
修了要件	動画を視聴しアンケートに回答する

ブドウの開花から収穫	
キーワード	巨峰、デラウェア、袋かけ、摘粒、袋かけ、雨よけ栽培
概要	ブドウ栽培技術の歴史、変遷、年間の作業工程を学ぶ。 課題を理解し、農福連携活動への導入を考える。
配信日	5/24
担当	野田勝二（千葉大学環境健康 FSC）
分類	栽培
到達目標	日本のブドウ栽培の現状を学び、農福連携活動への導入を提案する。
構成	オンデマンド動画授業教材 1 時間
修了要件	動画を視聴しアンケートに回答する

果樹の繁殖技術	
キーワード	接ぎ木、挿し木、取り木、不定根、発根促進剤
概要	果樹の繁殖に関わる基礎的な知識と技術を学ぶ。 果樹の苗木生産と農福連携活動への導入を考える。
配信日	9/20
担当	小原均（千葉大学名誉教授）
分類	栽培
到達目標	果樹苗木生産技術の基礎と課題を理解する。
構成	オンデマンド動画授業教材 1 時間
修了要件	動画を視聴しアンケートに回答する